

令和7年第1回(3月)川南町議会定例会会議録

令和7年3月13日 (木曜日)

本日の会議に付した事件

令和7年3月13日 午前9時00分開会

日程第1 一般質問

発言順序

- 1 中瀬 修 議員 (1) 町政運営方針について
- 2 徳弘 美津子 議員 (1) 町政運営方針
- 3 蓑原 敏朗 議員 (1) 町政運営方針について

出席議員(12名)

1番 小嶋 貴子 議員	2番 今井 孝一 議員
3番 中瀬 修 議員	4番 金丸 和史 議員
5番 河野 浩一 議員	6番 北原 輝隆 議員
7番 江藤 宗武 議員	8番 岸本 茂樹 議員
9番 永友 美智子 議員	11番 蓑原 敏朗 議員
12番 徳弘 美津子 議員	13番 中村 昭人 議員

欠席議員(1名)

10番 河野 禎明 議員

事務局出席職員職氏名

事務局長 山本 博 君 書記 大塚 隆美 君

説明のために出席した者の職氏名

町 長	宮崎 吉敏 君	副町長	
教育長	平野 博康 君	会計管理者・ 会計課長	石井 美貴 君
総務課長	小嶋 哲也 君	まちづくり課長	稲田 隆志 君
財政課長	川崎 紀朗 君	税務課長	米田 政彦 君
町民健康課長	渡邊 寿美 君	福祉課長	河野 賢二 君
環境課長	甲斐 玲 君	産業推進課長	河野 英樹 君
農地課長	新倉 好雄 君	建設課長	黒木 誠一 君
上下水道課長	大塚 祥一 君	教育課長	三好 益夫 君
代表監査委員	永友 靖 君		

午前9時00分開会

○議長（中村 昭人議員） おはようございます。ただいま、河野禎明議員から体調不良のため欠席するとの届出がありましたので、御報告をいたします。

これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元にお配りしてあるとおりであります。

申し上げます。携帯電話は電源を切るか、マナーモードにするようお願いをいたします。

傍聴人の皆様に申し上げます。議場内では、議会傍聴規則第8条及び第9条の規定により、議場における言論に対して、拍手、その他の方法により、公然と可否を表明することはできません。また、写真・動画撮影、録音はできませんので、よろしくお願いをいたします。

日程第1「一般質問」を行います。

議長の手元まで質問通告書が提出されておりますので、順次発言を許します。

念のため申し上げます。質問の順序は、通告書の提出順とします。

まず、中瀬修議員に発言を許します。

○議員（中瀬 修議員） 皆様、おはようございます。中瀬修でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、本議会が開会した3月11日は、東日本大震災が発生してから14年経過した日でした。三陸沖を震源とするマグニチュード9.0、最大震度7とも言われる揺れと大津波によって沿岸部を中心に甚大な被害が起こりました。改めて被害に遭われた皆様には、心よりお悔やみとお見舞い申し上げます。

数々の震災等によって、尊い多くの命、住居や様々な施設を奪った自然災害の猛威を改めて強く感じています。地震大国日本に住む私たちは、今後いつ起こりくるや分らない南海トラフ大地震も警戒しながら、日頃からの防災行動力の強化、ハザードマップの共有と減災対策、避難場所、避難経路の確認、備蓄用品の準備など、命を守ることを最優先とした取組をしていかなければならないと感じております。

さて、このたび、川南町議会議員選挙にて皆様の御支援を賜り、2回目の当選をさせていただきました。今回の選挙戦で頂いた声の多くは、正しい判断のできる議会になってほしい、町政を停滞させた川南町議会の責任は大きい、しっかりと目を開いて、町民のためになる議論と判断をしてほしいなど、町民の代表としての責任を果たしてほしいという切なる願いを各地区で頂きました。

私は、そのような思いを持つ町民の方々に、再びこの場に送り出されました。私たちは過去に戻ることなく、川南町を前へ進めていく姿勢を見せなければならないと思っております。皆様の声の代弁者としてお役に立てるよう、町議会を、川南町を前へ進めるためにも、誠実に精いっぱい務めてまいります。そして、全ての世代の皆様にとって、住みよい川南町だと言っていただけるまちづくりを目指していきたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

さて、前置きが長くなりましたが、先日行われた宮崎町長の町政運営方針に対して、通告に従い質問をさせていただきます。

昨年8月に町長になられて7カ月、町内でも様々なことが起きました。町長になられて思いどおりに行かないことが多かったのではないのでしょうか。人事すら思いどおりに行かないなど、大変な御苦勞があったことを存じ上げます。

本定例議会では、令和7年度に向けた宮崎町長初の骨格予算が出されました。まずは、しっかりと審議させていただきたいと思います。

今回は、町政運営方針の中から、大きく3つのことについてお尋ねさせていただきます。

まず最初に、町内4団体のトップ会談の具体的な方向性についてお尋ねします。

J A宮崎尾鈴地区本部、川南町商工会、川南町漁業協同組合、川南町観光協会と、それぞれの分野が力を合わせ、民間活力を最大限に生かしたまちづくりを推進されたいとの発言がありました。川南町が明るく希望にあふれる町になるためには、とても重要な会議であり、とても意義のある取組として賛同します。

この会議で、まず何を話し合っていくのか、できればもう少し具体的に説明していただきたいと思います。

例えば、第1回目に、いつ、どの時期に行うのか、この会議に招集を予定されている方の人員やその他の構成、内容等が現時点で分かればお願いしたいと思います。それらを含め今後町長が思い描く、川南未来予想図につながる、何らかのお話があれば、併せてお伝えください。

以下に関する質問については、質問席からさせていただきます。

○議長（中村 昭人議員） 傍聴人の方に申し上げます。議会内では脱帽の上、傍聴していただくようよろしく御協力をお願いいたします。ありがとうございます。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の御質問にお答えします。

J A宮崎尾鈴地区本部、川南町商工会、川南町漁業協同組合、川南町観光協会の4団体の代表職である方々と、団体ごとの現状報告をはじめ、それぞれの課題やその対策をどう講じていくのかなど、情報共有や意見交換を主な目的とした会議を行ってまいります。

御承知のとおり、当該4団体は、本町の基幹産業であります農林水産業と密接に関わる2つの団体が含まれております。とともに、その生産、加工品等を取り扱う商工業者のための基幹である町商工会をはじめ、食やその生産現場等を観光という切り口で誘客を図る観光協会など、多様性に富んだ組織です。

また、それぞれの団体は卓越した専門性も有しております。加えて、その他、町内には、県内より全国でも有名な民間組織が存在しますので、今後はそのような団体等の力を結集したまちづくりを推し進めたいと思っております。

なお、私は町長に就任以来、具体的に進めている民間活力を活用したまちづくりの事例の一つに、水産資源を活用した新たな価値創造に関する連携協定を、昨年12月に締結し、通浜

地区におけるブランド魚の確立、未利用魚の利活用、加工品等の開発などによって漁業者等の所得向上に寄与する取組を行っております。

御承知のとおり、この連携協定は川南町、川南町漁業協同組合、川南町商工会、一般社団法人川南町観光協会及び川南まちづくり株式会社という業種を超えた町内5者による協定であります。

また、ブランディングアドバイザーとして、本町が誇る株式会社ゲシュマックの社長、山道洋平さんや、高鍋町の人気店イタリアン食堂T a w a r a の代表俵哲也さんを招聘し、現在、未利用魚であるサメの商品化の研究を行っております。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） いろいろな団体のそれぞれが持った力を結集して、いろいろこれから進めていきたい。その手始めに水産業というところを、新聞報道等でもしっかり見させていただきました。とても有意義なことだと思っております。

いわゆる、世間でいうSDGs的な部分で、廃棄されるものもうまく利用していけば、付加価値が高くつく、そういうことにもつながるかなと思います。決して水産業だけでなく、この基幹産業といわれる農業、それからいろんな畜産業、そういうところにもつながることかと思っています。

この事業を通して、今、時代としてはインターネットの時代ですので、特に大きく世界にも発信できていく可能性もあるかと思いますが、そのあたりはどのように町長お考えでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

広く発信ということですが、今、川南町のふるさと納税、これが非常に順調に推移しています。このことに関しては、いろんなメディア、広告媒体も使って活用して行っております。そういった形で、町内の事業者の方々の、御自分は商品提供という形になりますけど、いろんなところに情報が発信される。これは非常にすばらしい、好ましいことだと思っています。

ぜひ、ふるさと納税の取扱事業者を増やし、広告料も運送料もかからないんです、その方には。ただしっかりとした品質、決められたものを送る、これが一番大切じゃないか。今まで未開発であったいろんな食品を加工する、またそれを、付加価値を高めて商品化するという中では、一番できるのはふるさと納税、活用が一番ふるさと納税じゃないかなと思っています。

ただ、町としても、ふるさと納税でトラブルとか、仮にクレームとか、そういうものが発生したときというのは、川南町の信用をなくしますので、しっかりとそのことについては対応を図っていききたいと思います。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） ありがとうございます。とても簡単な話ではないと思っております。非常に、壁の向こうといいますか、川南町の向こうには、いろんな消費者がお待ちして

いる。その中で、いいものをまずは届けないといけない。そういうところでは、今後いろんな課題を一つ一つクリアしていく。そういうことが大事なかなと思います。そういう中で、こういう皆様の各種団体の協力というのは、とても大事なかなと思います。

そこで、次の質問にも重なっていきますが、偏った人たちの集合体ではいけないんじゃないかと、いろんな若い人、発想のある、力のある人たちを巻き込んだ、こういう4団体を含めた会議というところには、そういう人材も必要じゃないかなと思いますが、いかがお考えでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

トップ会議、会談というのと、もう一つ、川南町経済推進会議というのを、2つの組織で、今回、経済推進会議に関しては、条例案を出させてもらっています。若い人の、いろんな方々の意見ということは、逆にその経済会議の中で進めていきたいと思っています。

各団体は、一番の存在意義というのは、それぞれの団体の会員の所得向上、それから安定した経営、そういったことに団体のトップとしてしっかりと取り組んでいらっしゃる。そういった方々と、いろんな問題を共有することによって、新たな次の施策、そういったことも含めて、いろんな腹を割った意見交換をやりたいと思っています。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 今、キーワードの中に、川南町経済推進会議というところが出てきて、そこで若い世代のいろんな斬新なアイデアと、それから、まちづくりのヒント、そういうところを拾い上げながら、今後の政策提案、政策実現というところに結びつけていきたい。

やはり川南町で私も生活している中で、やはり所得向上というところが一番重要な部分になってくる。また、基幹産業等、1次産業、若しくは生産業の人たちの安定した経営というところにもつなげるためには、そういう一つの自分の畑だけではなくて、ほかの事業者との連携といいますか、コラボレーションというか、そういうところが重要なことにもつながるかなと思います。

この経済推進会議というところに、若い世代という、単純な若いというところのあたりを示すのかなというふうに思っておりますが、どのようなお考えでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

議案第5号川南町経済推進会議設置条例の第1条「設置」にありますとおり、本町の各産業団体等で活躍する若い世代の意見を広く聴取し、官民一体となり強い地域経済づくりを図るとともに、産業振興施策を構築するため、この目的を実現する。

いろんな方々の、私一番感じたのは選挙期間中、いろんな方々に、町民の方々とお話をさせていただきました。私の年齢に近い人というのは、ある程度の考え方も、思いも共有することができる。でも、全く若い世代の方々は、基本的に発想が違うんです。私は、そういった若い人の感覚で、川南町の地域経済をどう活性化させるか、そういった議論の場をつくり

たいと思っています。

私も年齢的に考えると、今までの考えが凝り固まっているところもあるんです。でも、そういった若い方の意見というのは、もう想像もできないぐらい。先ほどインターネットとかという話も出しましたが、社会も変わっている。ですから、そういった若い人たちの考えを川南町に生かす。そういう組織でありたいと思います。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） そういう若い人たちを取り囲む中に、もちろん必要とあらば、学生さんの声とか、あと、それぞれの働いている場所等からの若い人たちの推薦だったりとか、若い世代で結婚している人たち、また、私たち健常で特に問題なく生活できている目とは違う、身体に障害を持っている人たちからの意見というところも重要になってくるのかなと、こういうところにも、経済につながる何かがヒントとして生まれてくるんじゃないかと思います。

その中で、どのような形、いわゆる規模、人数とか、例えば各地区で行うのか、本庁に一つにまとめて一気にやっていくのか、そういうところ、あと会議の日程等、もし何か考えていることがあればお答えください。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

まず、経済推進会議、中心はやはり町内の若い人を中心に、それから各団体からの自薦、他薦、団体からの、そういった中で50歳未満の方々を10名ほど、約です、選出していただいて、それから逆に、こちらから必要と思う場合には、こちらからもお願いすることもあると思います。

ただ、その中で、町外とか、それから様々な方々のというのは、障害者の方々もというお話もありました。その中のことについては、会議の中にそういった方がオフィシャルな形で参加する、そういった方々との意見も伺う、そういった組織にしたいと思っています。

基本的には町内在住の、また町内で働いて、就業されている方々を中心に行いたいと思っています。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 川南町で生活していく上で、本当に大事なこれからの推進会議、経済推進会議だと思っております。

本当に誰一人取り残されることもなく、どの世代も住んでいい町にしていきたいなと思っています。とても期待感が大きい会議だと私は思っております。できるだけ多くの若者が、川南町の未来を創造していくための会議をぜひ、今後成功させていただくようなスキルを見せていただきたいなと思っています。

いろいろ、私も最初言ったように、インターネット等で行くと、この川南町の中にももしかしたら、すばらしいインフルエンサーと、そういうところもあるかもしれませんし、そういう方とつながっているという方もいらっしゃると思います。そういうところも積極的に取

り込みながら、情報発信というのを今後ともお願いしたいなと思っております。

併せて、この川南町の魅力というところを発信していきたいということも、この経済会議から生まれてくるかと思います。この川南町の最大の魅力について、以前も町長の9月議会等でお話がありましたが、改めて今の最大の魅力ということについて、町長のお考えをお聞かせください。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

魅力あふれるという川南町があるべき姿、これは一言ではない、福祉であったり、教育であったり、様々な、川南町で先ほどおっしゃった、私が一番考えるのは、町民の安定した生活、これが一番じゃないかなと思っています。

そのためには、それぞれの事業者の所得向上、それから住環境であったり、働く場であったり、様々な要素が含まれてくるとと思っています。ですから、そういったものを総合して、川南町に本当に住んでよかったな、先ほどおっしゃいました、誰一人取り残さない。町民一人一人が川南町に住んでよかったな、幸せを感じる、そういったまちづくりが魅力あるまちづくりだと考えています。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 確かに、一言でこの川南町の魅力をと言われても、なかなか大きすぎるところの質問でした。

私的に考えている、本当に川南町に住む人たち、まずそこが本当に町長もお考えのように素晴らしい人材だと、魅力だと思っています。あとは、自然豊かな環境だったり、全国有数の食料生産基地でもある、などなど、あと最も災害的に一部沿岸部分もありますが、高台が中心となっている川南町の災害が少ないエリアということも、本当に一つの魅力になってくるかなと思っています。

そういうものを、今後、先ほど申しました推進会議等でも、どんどん発信されて、意見が出されてくると思いますし、そういうところを発信しながら、今後につなげていただければいいかなと思っています。

そこで、外にいろいろ発信していく中で、人口減少とか、少子化対策というところのキーワードも、町政運営方針の中に出ましたが、その中の一つのキーワードとして、移住支援アドバイザーという言葉も出てまいりました。地域おこし協力隊の方々が移住支援コーディネーターという形で活躍されておりました。その移住支援アドバイザーという新たなポジション、このコーディネーターとはまたちょっと違う感覚で受け止めればよろしいのでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 現在、川南町で地域おこし協力隊員が移住相談の窓口、自分たちの経験を基になさっていますが、私は移住アドバイザーという組織は、つくりたいと思っている組織は、来ていただいた方々がそれぞれいろんな課題を、来られてお持ちになるんです。そういった方々のしっかりとしたサポート、相談できる、これについては、商工会議所、先

ほどのトップ会議でもそうなんですが、各団体の方から御協力いただいて、連携、御協力いただいてしっかりと、川南町にお越しになった方々に対する具体的なサポート、支援、農業であれば、自分が携わる農業に対しての、どうやったら収穫を上げられるのか、そういったノウハウ等も含めて、それから逆に居住関係とか、それから地域のつながりとかというものも含めて、各方面、一つの方面だけじゃなくて、他方面からその人にしっかりと寄り添ってサポートできるような組織をつくりたい。

これはトップ会議の中で各団体等をお願いをし、令和7年度以内にしっかりとそういった組織をつくり上げたいと考えています。

お見えになった方も、いろんな事情があって、また別の場所にというのもありますので、それが何なのかというのをしっかりとサポートする。一番、よそから来ていただいた方々が喜ばれるのは、親身になって相談をできる方、地域おこし協力隊というのは、自分たちが川南町を目指してという、その切り口はそこでいいと思うんです。川南町の魅力も伝えることができるし。でも実際にお見えになった方々のサポートというのをしっかりと支援できる組織をつくらないと、来た人は先ほど言いました、出ていく可能性も必ずあるわけです。そういったのを相談できるような、多岐にわたる、そういった支援体制をつくりたいということです。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 連携を取りながらというところで、先ほど一番最初にもありました各種団体等、それから町内にはいろんな任意団体というところもあるかと思います。

もちろんその地区、地区に住めば、その地区のつながりというところも、とても大事になってくると、そういうところにも、こういう地域アドバイザーというところは下りてくるのかなと、いわゆるお願いされるのかなと思います。

やはり以前ではあったところが、最近は少なくなっているのかなというのは、おせっかいすぎる方々というところが少なくなっている分を、もっともっと活性化して、気にかけてあげられる状況をつくっていく。

言い方は悪いのかもしれませんが、そういう隣の台所事情まで知っているような人というのは少なくなってきましたが、そういうことに、移住してこられた、若しくはこちらで生活しようと志してこられた方々に、目を向けてあげることとして考えていけばよろしいですか。

そのところで、地域、いわゆる4団体以外にも、ほかのところにも各地区公民館の館長を含めた、そういうところもお考えなのか、またお願いしたいと思います。

○町長（宮崎 吉敏君） 支援アドバイザーというのは、一番大事なのは、その方が川南町で生計が立てられるか、また、今、中瀬議員がおっしゃいました、自治、それぞれの地区のことに関しては、自治公民館長、それぞれの組織、自治公民館長のサイドで御支援ができるような形を、入植された方々、川南にお見えになった方々でも、今現在、それぞれの

地区で活動をなさっていますが、一番うれしいのは、地区の人たちが温かく迎え入れる。

そして、その人たちに対する寄り添ったつながりというのが、非常に体験として、よかったというお言葉もいただいています。

ですから、町民、それからいろんな各団体、全てがしっかりとその人をサポートする。このことが出来上がれば、川南町にお越しいただいた方々が、いろんな夢破れて、諦めて、またほかの地方というのがなくなるんじゃないか。

細かなことまで、専門分野はそれぞれの団体で、そういった専門の知識の方がいらっしやいますので、そこにお任せしたい。でも、それ以外の生活に関することに関しては、そこはまた話していきたいと思います。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 人口が、これからどんどん日本の問題でもあります人口減少とか、川南町でも本当に人口減少、高齢、少子化の問題というところに、このような思い切ったといますか、手厚い支援をしていただくような支援アドバイザーといますか、そういうところを置いていただけるというのは、とても移住者等には心強いかなと思いますし、逆に私たちもどのように関わっていけばいいのかというところにもつながっていくかと思いますので、こちらのほうの確立というところは、できるだけ早急にしていただけるといいかなと思います。

それでは、次の質問に入ります。現在、最初の冒頭の話もしましたが、災害がとて多くなってきました。そこで、川南町でも昨年8月に大きな地震がありましたし、その後のいわゆる風水害、そういうところでの一時的ではありましたが、大変な思いをしたというところにあります。町長がお考えになっている自主防災組織、そこについて質問をさせていただきたいと思います。この自主防災組織、もう少し具体的な説明をお願いしたいと思います。

○町長（宮崎 吉敏君） 今現在、自主防災組織は町内に2つ組織されています。通浜、それから伊倉、伊倉のほうは、今、休止状態です。

私、町長になってから、災害に遭われた方々のお話を伺う機会がたくさんありました。その中で一番感じたのは、人ごと、人に頼る、これでは大きな災害になるときは無理なんです。人に頼る。72時間という3日間は、自分の力で、地域の力で自分たちを守る。それが全てじゃないかなと思っています。

今回、まだ川南町は自主防災組織というのが、先ほど言いました2つしか編成されておられません。できるだけ地域は地域で守る。自分たちは自分たちで守るという、その思いを形にしていきたい。

先ほど言った基本的に、災害に遭われたところは、行政の職員もそれぞれ被害に遭うわけです。災害に遭うわけです。能登町の町長がおっしゃいました。

夕方、4時過ぎに地震が発生した。その中で通常であれば5分で役場まで行けるんだ。と

ころが町長も道路決壊等で45分以上かかった。役場について職員がっていう中では、その夜までは3分の1に満たない、30%に満たない人しか来れなかった。2日目になると、各地区から、自治体から応援、協定書を結んでいますので、どこどこが災害に遭ったときには、仮に県内で行けば、ほかの市町村から職員が応援に入ります。そのときに初めて行政として行動が取れるようになった。これが現実。

ということは、自主防災組織というのを組織して、その中で1日目、2日目、3日目、1日、2日は自分たちの力で何としても守ろうと、そして3日目には、いろんなところから支援物資も入ってきます。ですから、72時間と言いましたけれど、2日目までは48時間、自分たちで自分たちの命を守る。これが大事じゃないか。

まだ、川南町にとっては地理なものも考えれば、非常に一部、先ほどおっしゃいましたように、一部は危険なところがある。でも、地震、津波だけじゃないんです。台風であったり、線状降水帯であったりというのが、今後発生する可能性がたくさんあります。

ですから、そういったときには、自主防災組織が組織されることによって、自分たちは自分たちで、我が身は我が身で、みんなで共助、みんなで助け合う組織が自主防災組織の基本です。

すみません、ちょっと長くなりましたが、自分たちの地域は自分たちで守るという自覚、連帯感に基づき、地域住民が自主的に結成する組織なんです。地域において、先ほど言いました、共助、これが起こったときからの3日間というのが大事なんです。これがなかったら、直接被害に遭わなくても万が一ということもありますので、ぜひ共助の中核をなす組織なんです。

本町においては、先ほど言いました、通浜地区と伊倉地区、伊倉地区は休止状態ですが、これ各地区に絶対に必要だと思っています。それはなぜか、先ほど言った災害については、いろんな災害があるんです。去年は台風のときは竜巻で都農町、佐土原、宮崎が大きな被害でしたけど、都農町も相当な竜巻の被害が出ています。

そういったときに、みんなで、私は都農町三日月原の竜巻の後、地域の皆さんが壊れた家を整理、みんな集まってお手伝いされている、そういう姿を見させていただきました。

ぜひ、各地区に、そういった自主防災組織をつくり、そして、自分とかが被害に当たらないときには、逆に被害に遭った地区におむすびをつくったり、お水を届けたりとか、そういったことにも生かせるような自主防災組織をつくりたいと思います。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 本当に、こういう災害が起きたときの人と人とのつながり、地域の中での協力、共助というところはとても大事ですけど、一番最初にも言われたとおり、自助というところの重要性、自分で自分を助ける力をつける、住み慣れた地域をまず知る、自分の周辺でのことを知る、それから、いわゆる自分で生き抜くための力をつけるためには、我々もそうなんですけど、全ての人たちが、お年寄りをさせば介護予防をしっかりとしていた

だく、あとは健康維持、そういうところにもこの自助というのにはつながってくるのかなと思います。

そういうところで、本当に声かけ、いろんな町からのいろんな発信、地区からのいろんな情報の共有、そういうところを今後もっともっと進めていただきたいと思いますし、それがこの自主防災組織というところにもつながっていくというふうに、私なりに解釈をさせていただきました。

そのあたりで、今後、最初のいわゆる川南町経済推進会議だとか、そういうものにも含めた、こういう自主防災組織に対する会議等も、併せて行ってみたらどうかという提案をさせていただきますが、いかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

いろんな活動の中で、一番行政、町として、トップとして考えなくちゃいけないというのは、やはり町民の生命に関わることだと思っています。これは、一つのミスがあって対応が遅れてということでは、言い訳にもならないんです。

しっかりとそのための準備、備えをして、そして町民の生命を守る。このことは、私も本当は一番に持っていきたいんですけど、意外と町民の方々にも、災害に対する認識というのがまだ浸透しておりません。

ですから、今、自治公民館長を中心に各地区で自主防災組織の設立をお話しさせていただいて、今、何カ所か自主的に自分たちで地域を守るために声も上がってくるようになりました。一番大事なのは、通常で判断できるような災害は、まだ何とかクリアできるんです。でも、想定外の災害、南海トラフというのが非常に問われています。向こう30年以内に起こる可能性というのは80%というのが示されています。これは年を重ねるごとに増えるんです。

ですから、間違いなくそういった身近なところに災害が起きるというのは、ですから先ほど中瀬議員も言いました、経済会議の中でも、町民の皆さん全てが災害に対する認識を持っていただきたい。

そのことに関しては、私も一生懸命いろんなところで会合でお話ししていきたいと思っています。一番大事な自助、公助、最後にというのが行政からのということになりますんで、まず我が身を守る。

この、まだ川南町は今まで過去大きな災害が起きていないんです。近隣で考えたとしても、非常に安心な町なんです。ですから何が起こるかというのが想定できないんです。でも事が起こったときには、事前の準備がないと対応できないんです。ぜひ自主防災組織のお互いに助け合う。

今、振興班も人と人とのつながりがだんだん希薄になっています。そういった中で自主防災組織ということも含めて、地域は地域で、人のつながりで守っていくんだという、そういった意識を感じてもらえればなと思っています。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 本当にいつ起こるやら分からないこの災害に対して、いかに私たちが想定をしながら、準備を進めていくというところには、本当にみんなが真剣な気持ちになれる何かをつくっていかなくちゃいけないのかなと思います。

また、今後いろいろな形で町内のインフラの整備だったりとか、いろいろ避難箇所、避難経路、そういうところの安全性の担保も含めて、またいろんな形、いろんな多角面から見た川南町を、また町長を中心にいろんな会議を通して進めていただきたいと思います。本当に一人一人の命、そこの重要性というところを認識されていますので、そこはもっともっと推し進めていただきながら、皆さんに伝えていただければと思っています。

最後になりますが、教育の充実というところについて、町政施政方針にありましたが質問させていただきます。

町の活性化や発展には人材育成が最重要と上げられております。そこの重要性というところの人材育成について、町長のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

川南町がよりよい方向にというのは、全て人なんです。人が育つことで、川南町の活性化というのは図れるというのが基本的な考えです。

ですから、人材育成、これは子供様も、学生も、それから大人も含めてしっかりと支援をしていきたい。これが基本的な考えです。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 人材を育成していく中で教育となると、どうしても目が向くのが、いわゆる義務教育だったり、その下から入ってくるかと思いますが、もちろんその義務教育の教育力の向上、そういうところも重要かと思っています。

今の中学校、小学校の中で、そこが決して落ち度があるわけではないとは思っておりますが、まずは小学校、中学校に対して、何かこういうことを今後考えている、教育水準若しくは人材育成につながる何らかのお考えがあればお聞かせください。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

恵まれた環境というのが一番、子供にとっては大事なのかな。子供の成長という過程の中では、いろんなものを受け入れる、そういった機会を様々な学業だけではなくて、いろんな方々のお話を伺ったり、そういった中で優れた方のお話を聞くというのは大事なことだと思っています。そういった外的な。

一番、今、川南町で取り組んでいるのが、地域とのつながり、地域で子供を育てる、キャリア教育というのが、私は、ほかの市町村よりは進んでいるじゃないかな。小学校高学年、それから中学校、様々な町内で活躍されている方々が、中学校、小学校に行かれて子供たちと対話を、自分の経験をもって対話をする。こういったのは一番地域が育てる。地域を愛していただけの子供を育てるというのが、一番重要な取組だと思っています。

川南町は非常にそれが進んでいます。でも進んでいるというのは、ただ自己満足の世界で

すから、もっと子供たちにいろんなチャンスを与えるべきではないかなと思っています。

それから高齢者の方々に対しても生きがいを持つ、今まで町内で先人たちが築いてきた、その礎をできれば地域の人たちにお伝えする、アドバイザー的な形のというのが、そのことが高齢者の方々の生きがいにもつながると思っています。

ぜひ町内全てで生かす、そういった教育を進めていきたいと思っています。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 私も本当に学校の中、教室の中だけで行うのが教育ではないと思っています。この恵まれた環境を、川南町の恵まれた自然あふれる環境、若しくは歴史的にも、いろんな文化にしても、本当に優れた町、そういうところを、まずは子供たちにも、早くから知ってもらい、そういう取組として、町教育委員会が行っているキャリア教育というところにもつながっていくのかな。

そういうのは本当に今後ももっともっと充実を図っていただきたいと思いますし、体験型の学習を通じたあらゆる分野の人との交流、そこから川南町のよさを早くから知っていただくというところを行っていくのも、一つの魅力というふうに感じております。

いろんな今、町長がおっしゃられたチャンスを、本当に生かしていく。それから学ぶ場を求めていく。それから年代、世代層に沿って生きがいづくりの場の提供をする。いわゆる子供たちだけではなくて、教える側の私たちの世代というところも学ぶべきことを、しっかりやっとなないと、伝えることができないんじゃないかというふうに思っております。

そういう場の提供としては、これも教育課が推進している、高齢者に対するいろんな生涯学習、そういうところにもつながっていくかと思いますが、ちょうど中間層が、そういうところがないんじゃないかなというふうに思います。

いわゆる我々世代は仕事をしながら、いろんなところが難しい部分もありますが、そういうところにとって、川南町の魅力発信をする学ぶ場というところをつくっていただくということは、できないものなのかいうところをちょっと提案させていただきますが、いかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 先ほど、人材育成ということでお話をさせていただきました。人材育成というのは子供だけ、義務教育者だけとは考えておりません。様々な方々が学びの場であったり、というのを考えなくちゃいけない。

ただ、おっしゃるように、そういった世界は今までちょっと手薄だったんじゃないかなと感じています。今後は、いろんな方々がこの川南町で生活する中で、学べる場というのは、今後、教育委員会とも話しながら前に進めていきたいと思っています。

以上です。

○議員（中瀬 修議員） 私も、本当にこの川南町を全て知っているかという、全くそうではないし、やはり学ぶべきことを、この川南町で住んでいくためには、自分から学ぶということをしていかなくてもいけないのかなと思います。

そこにそういう何かのきっかけとなる場を、提供していただけることも、もっともっとそういう考えを持つ人たちが増えてきて、それが世代、世代でつながっていったって、伝承されていくものにもなっていくのかなと思いますんで、ぜひ今後ともそういうものは、思い切って発信していただきたいなと思っております。

この最後の質問にはなりますが、この選挙戦でも一つ言われているのが、新中学校統合問題というところが争点に、私たちは議会をただすべき方向に持っていきたいという思いで、この選挙戦を戦ってきたんですが、なぜか新中学校というところのキーワードが出てきたというのも事実であります。

現時点で、町長が、新中学校どうするのか、中学校統合についても、この町政運営方針の中でもキーワードとして出ていますが、どのように現段階でお考えなのか、お願いしたいと思います。

○町長（宮崎 吉敏君） 中瀬議員の質問にお答えします。

中学校についてという御質問でした。様々な場で、中学校に対する御意見が多様、たくさんの御意見がある。今現在、教育委員会のほうでアンケート調査も行って、それを今まとめている段階です。

私の立場とすれば、先ほど教育という中でよい環境というもありましたけど、まず基本的な考えは、教育委員会が考えていること、意見集約したことを尊重する。

本来、川南町内の組織なんですけど、教育委員会も、でも教育に関することに関しては、政治的なというのはあるべきじゃないと思う。教育委員会の示したことをしっかりと支援する。これが私の気持ちです。

それから新しい中学校にということに関しては、教育長のほうで答えをしていただけたらと思います。よろしいでしょうか。

以上です。

すみません。私のほうに聞かれているわけですから、私から、中瀬議員の質問にお答えします。

先ほど私の考えを申しさせていただきました。いろんな考えがあるんです。アンケートの中にも、いろんなこうしてほしい、ああしてほしい、ここはというような御意見もたくさんありました。

今、教育委員会がそれを精査しております。新たなというか、統合という言葉は前の議員の皆様も、全てが統合はオーケーだと、あとは場所、費用ということだったんじゃないかなと思っています。

統合は早く早急に進めるべきだ。今現在、中学校も子供たちが少子化という中で、1クラス維持というのが大変な状況がある。ですから統合というのは早急に対策しなくちゃいけない。

ほかにいろんな御意見がありましたので、それは教育委員会が精査してます。恐らく近日

というか、2カ月ぐらいにはお示しができるんじゃないかなと思っています。お示しいただけるんじゃないかなと思っています。

ですから、そのことを踏まえて、しっかりと教育委員会が、できれば、私、教育に事関することは、いろんな町民の方々も思い、考えがありますが、ぜひ子供にとって、そして私たちができることは何なのか、責務として何ができるのか、これをちょっと大事に考えていただけたらと思います。答えになってないかもしれませんが、以上です。

○議員（中瀬 修議員） 2年前に振り返りますが、新中学校建設が白紙と、これは議会で議決されたことになりますので、もうどうのこうの言うつもりはないんですが、当時のことを思い返すと、本当に多くの子供たちがもし、たればなんですけど、来年の4月には、新中学校ができていたということで、多くの子供たちが肩を落としているのを本当に目の当たりにしてきました。

そういう中で、今、町長がおっしゃったように、子供たちにとって、何が一番有意義なことなのか、大事なことなのかということを、これから教育委員会を含め、いろんな関係各機関で話し合いが進められていくと思います。

また、私たちの議会の中にもそういう提案が求められてくるのかなと思いますので、そこはしっかりまた精査をしながら審議して、これから進めていく場になっていくかと思っています。

さきのアンケートでも、教育課のほうからも回答がありましたが、やはり新中学校を要望する声のほうが大きいということもありましたので、そのあたりを含めて、今後、本当に早急にいろんなことが進んでいくことを熱望しながら、今回の一般質問を終わらせていただきたいと思います。

以上で終わります。

○議長（中村 昭人議員） しばらく休憩します。10分間休憩します。

午前10時03分休憩

.....

午前10時13分再開

○議長（中村 昭人議員） 会議を再開します。

休憩前に引き続き、一般質問を続行します。

次に、徳弘美津子議員に発言を許します。

○議員（徳弘 美津子議員） 通告書に基づき、一般質問をいたします。今回の議会解散に伴う選挙を経て、新たな議会構成となりました。私も住民の皆様の負託に応えるべく、これからの4年間、議員として活動してまいります。宮崎町長におかれましては、副町長不在の7カ月間、激務を担われたことを推察いたします。まずは、その労をねぎらうとともに、今後の町政運営方針について伺います。

3月11日に示された町政運営方針については、以下の点について質問いたします。

先ほどの中瀬議員と質問が被るかもしれませんが、心を広くお許してください。

まず、町内4団体との会議を通し、どのような経済施策を期待しているか。町政運営方針では、J A宮崎尾鈴地区本部、川南町商工会、川南漁協協同組合、川南町観光協会の4団体との会議を通じ、民間活力を最大に生かしたまちづくりを推進するとされています。町長は、長年、商工会長を務められた御経験があり、これらの団体とのつながりを生かせる立場にあります。

そこで、次の点について伺います。

これまで以上に政策提言を行うため、4団体とはどのような形で協議を進め、どのような経済施策を期待しているでしょうか。

以下の質問については、質問席から行います。

○町長（宮崎 吉敏君） 徳弘議員の質問にお答えします。本町の課題や発展・活性化を図るため、町内4団体の代表者と年4回の定期会議を行います。

なお、その趣旨ですが、各団体のトップの皆様は、組織の将来ビジョンや各会員の所得向上、生活の安定を常に考え行動しています。このようなお互いの思いを共有し、それぞれの垣根を越え、連携・協力していくことを目指します。

誤解を招かないように申し上げますが、当該トップ会議は政策集団や諮問機関ではありません。各産業間における課題等の公聴の場としてこの会議を活用し、的確な経済対策を講じてまいりたいと思います。

以上です。

○議員（徳弘 美津子議員） トップ会談ということなのか、確かに先ほど中瀬議員の質問のときに、昨年の12月に水産資源を生かされたということで、新聞にもテレビにも出ておりました期待するところです。具体的に、そのほかに何か思うもの、こんなことの提言があればいいなというものとかありますか。

○町長（宮崎 吉敏君） 徳弘議員の質問にお答えします。

まずは、各団体が抱えている問題や課題、それをまず共有したいと思っています。その中から、町に対しての要望、それから町の方向性、全てをその会議の中でお互いに意見交換をしたいと思っています。今後の中でどのように政策に生かせるかというのは、今後の活動にかかってきていると思います。そういった場を設けたいと思います。

以上です。

○議員（徳弘 美津子議員） 確かに、主要な団体のお声を聞くことも大事ですが、私たち選挙で回っていると、本当に末端のと言うか、本当にすそ野のほうの、例えば農業される方でも今の生活がいっぱい、資材代が高騰しているとか、でもそれを言ったところで、どこにも届かないよねという末端の声がちゃんとそこに届けるようなシステムとかやるんですかね。例えば農協、J A尾鈴がありますので、農協に入っていないとその声って届かないと思うんですね。農家の人の声って。そういうことを求めているわけではない。そこからかなと思うんですね。結局、4団体とか主要な産業ということは、それぞれに属する方たちがいるわ

けですので、今回の農業は特に皆さん選挙で回られたときに、もう悲痛な声を聞かれたと思うんです。資材代が上がって大変だとか。そういう声が、その団体を通して届くことという期待もよろしいのでしょうか。それとも、もっと政策的なものということの捉え方でよろしいのでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 徳弘議員の質問にお答えします。

町民の方々の御意見というのは、また新たな世界も可能かなと思っています。ただ、各団体の団体の会員が、それぞれ町内で様々な事業、農業も当然ですが、そういった組織で、組織の会員の声を賜ってというのが基本的な組織の在り方だと思っていますので、ぜひ、末端の方々の思いというのもその中で出てくるのかなと。ただ、もう一つ、先ほど中瀬議員のもありましたけど、川南経済推進会議の中では様々な分野の方々を招集して動かそうと、ここがやはりいろんな政策を生かすための組織になると思っていますので、一つ一つの町民の声もここで拾っていったらなと思っています。

以上です。

○議員（徳弘 美津子議員） これらの会議の内容とか決定事項などは、町民に対してどのように公開される予定でしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 先ほど、トップ会議は政策集団や諮問機関ではありませんということを一応お断りをさせていただきました。この会議の中で話したことというのは、公に一般町民にもオープンにということは、ちょっとその世界はまだ考えておりません。

以上です。

○議員（徳弘 美津子議員） 分かりました。多分こういうことを通することで様々な、先ほど中瀬議員のときに、ふるさと納税の商品作りとかという感じで言われましたね。6次産業化を進める上で、例えば新規の加工施設が必要であるとか、どうしてもこの施設が必要であるというときは、そういう予算措置をされるという考えの方でよろしいでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） トップ会議は、様々な町内にある町の問題・課題も含めて、様々な議論をしていきたいと思っています。観光ということも含めて、議題の中で意見交換をやりたいと思っています。

以上です。

○議員（徳弘 美津子議員） 大変期待するところであります。ただ、上、トップだけで決まってしまうことの怖さとか、本当に住民の声が聞こえる会議になってくれるといいなと。ある意味、消費者団体がいるとまだいいのかなと。だから、それを皆さんが考えることの政策が、消費者の立場でいくと、「うーん、ちょっと」というのもあれば、もしかしたらそういう目線も必要なのかなと思っています。

次に行きます。川南町経済推進会議についてですが、先ほどメンバーとかは伺いましたのでよろしいです。各団体の代表者が選ばれるとのことですが、自主的な意見発信や行動を促すために、どのような工夫を考えていらっしゃいますか。

○町長（宮崎 吉敏君） 徳弘議員の質問にお答えします。

今回、議案第5号川南町経済推進会議設置条例第3条組織にありますとおり、推進会議は、次に掲げるもののうち町長が任命する委員をもって組織する。とあり、1、川南町若者連絡協議会関係者、2、農林水産業青年組織及び女性組織関係者、3、商工業青年組織及び女性組織関係者、4、前3号に掲げるもののほか、町長が特に必要と認めるものと定めております。つまり、当該団体等から人選することになりますが、自薦、推薦、若しくは逆指名を含めて対象者を選考したいと考えています。

以上です。

○議員（徳弘 美津子議員） 分かりました。あと若連とかあって、非常に期待はしております。ただ、若連も例えば消防のメンバーであったりとか、普段の生活であったりとか、仕事であったりとか、いっぱいいっぱいな部分があるのではないかなという気がするんですね。だから、やっぱりそこあたりが負担になるのかではなくて、自分たちがまちづくりするんだと、そのようになるんだという希望が見えたら、きっと積極的に参加すると思うんです。そのためにやっぱり町長がある程度の旗印をして、こういうまちづくりをしたいんだよということをやっぱり言っていただいて、君たちの若い声をかけほしいんだよということをやっぱりちゃんと促していただいて、自分たちがまちづくりの一員になるという自負を皆さんに持ってもらえるような、モチベーションが上がるような、町長の熱い思いが皆様に伝えられたら、その会がもう面倒くない。「今日は会議があるよ」ではなくて、「今日はあの会議があって、あのことを言おう」とかというような会議にできるというような自信というか何かありますか、方策が。

○町長（宮崎 吉敏君） 当然、基本的には川南町の将来、5年後、10年後を見据えた議論を重ねていきたいと思っています。その中には、今までそれぞれの組織、若い青年部、女性部含めて組織がありますけど、その方々が議論したことが施策に生かされるという場はなかったと思うんです。私は、こういった推進会議の中で皆さんが意見交換しながら、具体的なことに對しても意見がまとまれば、ぜひ、施策に生かしたい。このことが、やはり参加された方々の思い。自分たちがみんなで語ったことが形になって施策に生かされるという、これはやりがいのある組織になると思っています。ですから、私がどういうまちづくりをしたいのかというのは、最初に皆様にお伝えしたいと思いますし、私の思いをしっかりと語って、彼らで若い、一番、先ほど言いました、発想が全く違うのを期待しています。もう決められたルールの中で、今までの流れの中でと言ったら、僕らでも考えられることです。でも、若い人の前向きな、そういった御意見を賜りながら施策に生かす。これが一番だと思っています。

以上です。

○議員（徳弘 美津子議員） 本当に期待するところです。よく川南は、以前は、ものすごく元気があるよねとかよく言われて、特に若連の方たちが一生懸命いろんなことを発信して

やっていたりとか、鍋合戦をやったりとか、見える化をすごくしていました。でも、このような近隣市町村との連携の可能性とかについて、何か検討されることはないですか。昔、鍋合戦とかありましたよね。あれ児湯郡でやったりして、今なくなりました。でも、結局それは、それをする方たちの負担になっていたんですね。だからやっぱり、今後、児湯郡でいろんなことを取り組まないといけないときに、これらの団体の中の話が、じゃあ、隣町の中で一緒にやっていけたらなということがあれば、そのような考え方とかはありますか。

○町長（宮崎 吉敏君） 徳弘議員の質問にお答えします。

何か新しいイベントとかという質問ではなかったかなと思います。私は、この組織に負担をかけるではなくて、新しい提案を自主的に考えていただけたらなと思います。残念なのは、今まで、ザ・フェスティバルも一応休止になりました。それから、花火は今年上げようと思っていますが、イルミネーションも中止になりました。要は、いろんな人の労力に頼らないとできなかったイベントなんですね。できれば、そういったイベントについては、ちょっと見直しを図るべきではないかなと思っています。経済推進会議は、いろんな思いを提案して形にする。そういう組織であってほしいなと思っています。

以上です。

○議員（徳弘 美津子議員） 確かに、様々なイベントは、それぞれに携わる人たちの負担が大きいということも聞きましたのでどう関わらせるか、自主的に動いていただくというのを、モチベーションがどう上がるかというのは、町長の采配と熱い思いによると思いますので、期待しております。

では、次です。斬新なアイデアの募集方法と、町民提案の政策会について、町政運営方針では斬新なアイデアを広く募ってされております。これに関して質問いたします。

どのような手段で町民からアイデアを募集する予定でしょうか。例えば、オンラインプラットフォームの活用やアイデアコンテストの開催など、具体的な計画があれば教えてください。

○町長（宮崎 吉敏君） 徳弘議員の質問にお答えします。

先ほど発言させていただきましたこの経済推進会議というのは、何かを事業を起こすということではなくて、川南町全体を見回して何ができるか、そういった形の議論を行っていただきたい場です。何かイベントをやるのかとかというのであれば、それぞれの団体でそれは考えていただければいいことなのかな。川南町の将来に関わるいろんな熱い思いを語りながら、川南町の施策に生かす。これが基本だと思っています。

以上です。

○議員（徳弘 美津子議員） もちろんそうでしょうけども、多分、声なき声というか思いがある人もたくさんいるんですね。だから、例えばそういうアイデアを募る、広く。それもあっていいと思う。そういう団体からののも大事ですけども、やはり様々な住民の方たちが持っているアイデア、クレームではなくて、アイデア。建設的で前向きなアイデアが集まる

ような工夫を考えてほしいと思うんですけど、いかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 徳弘議員の質問にお答えします。

経済推進会議の中で、そういった御意見等があれば尊重したいと思います。ただ、この会議をつくる目的は、先ほども言いましたイベントのためにとかという組織ではないと捉えていますので、川南町全般にわたって将来に向けて川南町がどう施策に生かしていけるかというような、そういった議論の場。もし、イベントということであるなら、逆に若者連絡協議会、そういった団体が組織されていますので、そこで会員の負担にならない方法を選んでいただいて、方向性、それから、やるかやらないか、そういったのはその場で議論していただければ良いのではないかと考えています。

以上です。

○産業推進課長（河野 英樹君） 徳弘議員の御質問の中に誤解を招くといけませんので、一旦、整理をさせていただきたいと思います。

議案第5号川南町経済推進会議設置条例を今回提案させていただいております。所信表明の中に町長が推進会議のことを触れておられます。

議案書を見ていただきますとおり、この推進会議は地方自治法第138条の4、第3項の規定に基づき設置するものです。所掌事務、やることですね、推進会議に求めていることですが、推進会議は強い地域経済づくり及び産業振興に関し、必要な提言等の調整及び審議を行うということが職務として定義づけられておりますので、若者連絡協議会、その他団体等が担うイベント、そういうものをやっていく会議を、団体をつくるものではございません。

以上でございます。

○議員（徳弘 美津子議員） 分かりました。先ほどの考え方。でも、ずっと町長のお話を聞いていると、やはり前向きないろんなことの意見を聞きたいというものの中に、どうしても固定した団体という捉え方しかないので、例えば、前の東町長はタウンミーティングをしておりました。あれは町民の方の声を聞くという姿勢の中の表れでした。

そこで、町民の声を直に聞いたと町長は言います。そういうものではなく、一定の決まった団体に固執してやっていくのもそれも大事でしょう。もちろん、この条例に基づいた経済推進会議はそれはそれでいいんですけど、町長の姿勢として、様々な産業の人たちの声を聞きたいというものの中に、そこに声を出せない人たちの考え方として、そのアイデア募集のところがそこにあるのかなと思うけど、そうではないのなら言っていただきたいのですけれども。出せない、団体に入らない人たちの声というものも、やっぱりこれは今後の課題ではないかなと思うんですね。そこあたり町長の思いがあればお聞かせください。

○町長（宮崎 吉敏君） 私の一番大事な、また、今回リコール等で問われたのは、町民に寄り添い、町民のために、このことが一番大事なテーマだったと思っています。ですから、いろんな機会を設けて、そういった町民の方々の意見交換というのは今どういう形であるかというのを模索しております。新しい新年度に入れば、そういった場を設けていきたいと思

っています。いろんな方々の御意見は尊重し、そして、それを町政に生かす。これは、徳弘議員がおっしゃるように、町民一人一人の意見も大切にしたいと思っていますので、そういう形で動いていきたいと思っています。

以上です。

○議員（徳弘 美津子議員） ぜひお願いしたいと思っております。

次、移住支援アドバイザーですが、町長が先ほどもちょっと言われましたが、選定と移住支援策の強化について、町政方針について選定が示されておりますが、アドバイザーは先ほど言われたような、様々な移住に対する人たちということで、このアドバイザーに対して選考に当たり公募を行う予定はございますか。

○町長（宮崎 吉敏君） 私の考えでは、先ほど各団体トップ会議を開催する。それぞれ、商工会、農協、それから漁協、観光協会、それぞれのそういった経営であったり、就農に対する支援であったりというような専門の方々がいらっしゃいます。ぜひ、専門に関わることにに対しては各団体から協力をお願いしたいと思っています。

それから、先ほど自治という話も出ましたが、いろんな方が来ていただいた方々に対して携わっていく。アドバイザーというのは、基本的にはしっかりとその人が抱えている課題解決、それをやりたいと思っています。一番大事なのは、よそから来て、どなたにも相談もできない。知った方と相談しても適切な答えも返ってこない。そういったのもあると思うんです。ですから、町を挙げて、しっかりと来ていただいた方々にはサポートすると、そういう考えでいます。

以上です。

○議員（徳弘 美津子議員） ありがとうございます。ここでも各団体で、各団体大変ですね、たくさんいろんなことを、仕事、それぞれ人がいるんでしょうけども。あまりにも、いいんです。公募って、都城だったと思うんですけど、何かそういうアドバイザーがいて、多岐にわたる住民の方たちがやられている、ごめんなさい、ちょっとうろ覚えなんだけど、そういう住民目線の人たちがやっぱりやってらっしゃったというのもあるので、ぜひそこあたりも考慮していただきたいなと。

そして、移住者がありますが、併せてUターン者への支援。結局、移住者だけでなくUターン希望者への支援も検討してほしいなと思っているのでね。例えばUターン者特有のニーズに対応するための施策とか、例えば昨年、東京川南会に私、町長と、網代さんとJAの組合長と一緒にいったんですけど、もう風前の灯火で、もうやめようかなってことを代表の方が言われていたんですね。ぜひ、この東京川南会、東海川南会とかありますが、これやっぱり行政が支援をしてあげて、例えば何うとある一定の年代の人たちで構成されたので、その方たちが年齢が高くなっていることで、その会の存続が難しくなっていると。会員関係は200人ぐらいいるんですけども、来るのが20何名ということで、なかなかそこにすそ野が広がらない。例えば若い世代がそこを知らない。東京川南会あるのを、まず、ある皆さんに

聞くと、誰もうちの息子たちは東京に行っているけど知らないよと。まず、そこの広報活動を何かぜひやっていただいて、町のホームページでもぜひ載せてくださいよと会長さんから言われました。ぜひ、そこの支援をしていただいて、その情報を、結局、当事者でないと共有できないので、東京川南会があるよという広報をして、そこに登録していただいて、ぜひ年に1回でもいいですし、そのふるさとを思って、よければそこにアドバイザーが行って「川南、今こうなっているよ、ああなっているよ」という感じで、帰りたいなという施策につながれば、これも一つの方策ではないかなと思うんですけど、昨年、東京川南会に行かれた町長はどのような考えでいらっしゃいますか。

○町長（宮崎 吉敏君） 川南東京支部の会の中で感じたのは、一番はやっぱりコロナですね。コロナで休催という中で今までの参加していただいた、昔は東京川南会も60人ほどの参加だったと思っています。それから、東海川南会もそれぐらいの、私、東海川南会は毎年行っていましたので、そういう参加者でした。コロナということがあって、人が集まるということがちょっと難しい。改めて今活動という世界になったんですけど、できればその組織の中核になる事務局のほうがい로운な方々に文書だけではなくて直接、それはこの前、東京川南会の中でもお伝えしました。しっかりと会員の皆様に直接お声を届けて、来ていただくような取組をお願いします。結果的には22人の参加でした。東京でと考えると場合には非常に寂しい会だったのかなと思っていますが、先ほど言ったコロナという世界でやっぱり厳しいものがあつたと思うんです。何としても、参加者が少なくなったとしても会は存続してくださいというのを熱くお願いしました。それは続けるとお約束はいただきましたので、これは東海川南会もそうなんです。東海川南会も運営することが負担になっているんですね。ではなくて、せっかく川南町に御縁のあつた方々がいらっしゃるわけですから、そういった方々が集まって話す場というのは非常に大事だと思っています。ですから、いろんなところにお声をかけて、ぜひ続ける。そして私たちもこちらから東京に行かれるとか、東海、愛知、岐阜等に行かれるということがあれば情報提供したいと、そのように考えています。

以上です。

○議員（徳弘 美津子議員） 結局ですよ、川南に若者がいなくなったというのは、結局皆さん都会に行かれているんですよ。福岡であつたりとか。本当にそっちにいる子たちの情報が分からないから、これに存続ができないというのものもあるから、いずれその子たちが帰ってくるという見込みをして、ぜひこの川南会を各地で、まず地元の御両親、保護者の方たちにそういうのがあるということを知っていただくという方策は、ぜひ町内でやっていただきたい。その情報を、うちの子はここにいますよという情報を、そこをすることで最終的には川南に帰ってもらう。例えば25歳の同窓会か何か、あれでも、そこあたりもあるので、ぜひ町長の思いでこの会を、コロナという理由ではなりませんので、ぜひ存続させてもらいたいなと思っています。ごめんなさい、ちょっと町政運営方針から外れますけども、今の川南が移住支援の中では、Uターン者をいかにして確保するかもすごく大事なことだと思うので、

ぜひそこにも力を入れていただいて、Uターン者であっても、いろんな移住コーディネーターの方たちがお仕事のこととかをやっぱり考えていただくというのも大事なかなと思っていますので、ぜひ自分たちの子供たちが帰るまちづくりをお願いしたいと思っております。

次です。自主防災組織の結成の促進と町の支援策について。

町政運営については、自主防災組織の結成促進に力を入れているとされていますが、先ほど中瀬議員のほうからありましたので、今2つあるということで伊倉が一つ休止中ということで、組織を結成する際に予測される課題や障壁とかはありますか。住民の防災意識を高めるために町としてどのような取組を計画していますか。例えば防災セミナーの開催や広報活動の強化などが考えられますが、具体的な施策があれば教えてください。

○町長（宮崎 吉敏君） 徳弘議員の質問にお答えします。

現在、川南町内に防災士という資格の方々がいらっしゃいます。その方々に対して、各地域の防災に関する協力ができないかということで調査をいたしました。結果的には、33名ほどの防災士の方々が地域で協力するよという御意見を賜っています。その防災士の方々のデータについては、各自治公民館長のほうにもお伝えをしております。やはり専門的な考え方、そして、実際に何が起こったときにどうするのかという行動まで策定するということが大事だと思っていますので、ぜひ、防災士の方のお力も借りながら進めていきたいと思っています。

以上です。

○議員（徳弘 美津子議員） 防災士というキーワードが町長の口から出たから、ちょっとお尋ねしますが、私も防災士になっているんですね。あのとき多分、10年前かな、当時の議会が全員取ったんですね。あのときはすごく機運が高まっていて、ある議員が防災士取りましようということで、うちの地域でみんな取るんですよということで、じゃあとなって、今、多分、現議員では3人が防災士であります。それが生かされない。なぜなら、町がそのフォローをしない。防災ネットワークに加入すればスキルアップの講座が年に何回かあるんですね。私もこういうふうに入っていますけども、なかなか加入の段階でちょっと入りにくいのかあるのか知らないけど、スキルが生かされていない状態です。なので、もちろん、今回立ち上がったことで防災士の方たちの立ち上げをして会も開かれております。ただ、もうちょっと年齢が高くなったから厳しくなったとか言われて、その方たちの熱量がちょっと冷めている部分もあるので、新規の防災士獲得をぜひやっていただきたいと。本当に新富は各地域の部会が必ず防災士がいないとダメという形もあるので、防災士育成をぜひしていただきたい。河野知事が昨年度、昨年か今年、3月休んで取られました。そこで、やっぱり防災の意識がすごく高まりましたということを言われていますので、新規の人たちの募集をぜひ積極的にやっていただいて、そして、そこにそのまま自主防災組織につながるレーンづくりをしていただくといいのかなと思っていますが、いかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 徳弘議員の質問にお答えします。

正確な数字というのはちょっと申し訳ありません。つかんでおりませんが、川南町内で防災士の資格を持っている方々はまだいらっしゃいます。でも、先ほどおっしゃった高齢になつたりということで、今回、防災士として活動するという方は、先ほどの33人の方々が協力いただけるということです。新たな、新規なということに関しては、自治公民館を主体として、そういった御案内はしていきたいと思います。

防災士が自主防災組織の中にいる、いないで全然運営が変わってくると思います。やっぱりいろんな状況を策定しながら、こういった具体的に一人一人何をやっていくかというのをつくらなくてはいけないですね、行動。そういったものも含めて、今、御指摘がありました防災士の推進ということに関しては取り組んでいきたいと思います。

以上です。

○議員（徳弘 美津子議員） この災害に対する課題の中で、自助の中で、共助までがこの自主防災組織の活動になると思いますので、ぜひ、人ごとではないということを、各地域の人がみんな入る、各地域に自主防災組織があるぐらいの、してほしいなと思っております。高齢者や単身独身者世帯などの防災面で特に支援が必要な方への対応策というのは、どういうふうに考えていらっしゃるのかなと思っております。具体的な支援内容や取組があれば教えてください。

○町長（宮崎 吉敏君） まず、自主防災組織をつくるということが目的ではなくて、実際に何かことが起きたときにはしっかりと活動する。当然、徳弘議員がおっしゃいました地域の高齢者、また、体が不自由な方もいらっしゃると思います。そういったところでは、地域でしっかりとそういった方々の支援ということを、誰が具体的に担当になってどうするのか、それは自主防災組織の中で決定していただければと願っています。様々な方を取り残さないように、町民一人一人を助けるためにという基本的な考えを進めてまいりたいと思います。

以上です。

○議員（徳弘 美津子議員） そうですね。だから、通山はいろいろやっているんですね。だからやっぱり、自治公民間の組織図の中に、自主防災という堅苦しいのではなくて、防災に関するワードをつけた部会をつくるとか、そういうものを積極的にやっていただいて、防災が必ず活動の中に入り込むんだよというところをすれば、わざわざ自主防災組織をつくらなくても、少なくとも自治公民館ごとに自主防災組織的な役割をするものがあれば、またはそれはその中で予算措置をすればいいわけですし、そういうのをすることで、本当に防災に対する人ごとではないというものを皆さんに感じていただきたいと思うんですね。この自治公民館の体制の組織図の中に自主防災というか、その防災を入れているかどうかちょっと分かりませんが、その考えはどうでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 基本的な考え方を申し上げます。各自治公民館等に、そういった組織をとというのは切に願っています。このことに関しては、うちは災害がないから大丈夫だよという意味ではないんです。町内全てのところに防災組織ができて、自分たちのところは

軽微な災害であったとしても、ほかの町民の方々が今、災害になって苦しんでいると。そこに対して支援というのにも必要ではないかなと思っています。ですから、一番、自治公民館に組織されるということと、各地域に、基本的には自主防災組織というのは10世帯で組織することが可能です。組織をするということに関しては、今、町のほうも初会、初めて組織ができるということに対しては、10万円の支援策を設けています。それから、自主防災組織が自分たちでどういったものを活動するのかとか、備品としてこういったものが必要だとかというときには、かかる費用の半分、50%になりますが、50万の活動支援費を予算立てしております。ぜひ、そういったものを活用して、一番大事なのは、基本的に地域は地域で守ると。もうこれしかないと思っていますので、どうか御理解をお願いいたします。

○議員（徳弘 美津子議員） 分かりました。近々の課題ですので、ぜひ皆さんの防災意識が高まる方策を願っております。

では、次です。教育の充実に関する具体策や施策について。

教育の充実が掲げられていますが、町長が考える、すばらしい環境下での学業とは具体的にどのような環境を示していますか。例えば施設の充実、ICT教育の推進、自然環境を生かした学習など、具体的な要素があれば教えてください。

○町長（宮崎 吉敏君） 徳弘議員の質問にお答えします。

すばらしい環境でということ、町政運営方針に掲げさせていただきました。

環境については、子供にとっての学ぶ環境ということで、物的な環境、それから人的な環境、また家庭環境、社会環境、文化的環境といった様々なものが含まれます。子供を取り巻く環境は、子供の成長や教育に大きく影響すると考えておりますので、川南町の将来を担う子供たちには恵まれた環境の下で学業に励むことができるよう支援を行っていきたいと思います。ただ、今の質問の中で施設ということも含まれたのかなと思いますが、今現在、教育委員会のほうでアンケート調査、また、議会のほうにも調査結果報告があったと思います。その中に統合ということに関しては、ほとんど異論はない。ただ、場所、それから施設の規模、それから予算、そういったものに対しての御意見が様々あったと思っています。中瀬議員のときもお伝えしたのですが、今、教育委員会のほうでしっかりとアンケートとの結果を精査しております。必ず近いうち、先ほどは2カ月後ぐらいかなというお話をさせていただいたのですが、施設等については教育委員会の御意見を尊重すると。本来、先ほどもちょっと2度になるかもしれませんが、本来、教育委員会というのは川南町の行政の中の一つの組織ではありますが、教育というのは全く分離した組織なんです。ですから、教育委員会が考えて、将来の子供のために、また、町民のためにということを含めて近々、結論が出ると思っていますので、その思いをしっかりと尊重して、実現までの支援をしっかりと行っていきたいと思っています。

以上です。

○議員（徳弘 美津子議員） ありがとうございます。大体質問しているところをほとんど

言っていたいたので、期待するところです。

最後の質問です。デジタルトランスフォーメーション推進におけるということで、これ、高齢者の対応についてどのように考えているかをちょっと伺います。

その推進に伴い、デジタルに不慣れな高齢者が行政手続をスムーズに行えるよう、具体的にどのようなサポート策を検討していますか。

○町長（宮崎 吉敏君） 徳弘議員の質問にお答えします。

高齢者に対するデジタルトランスフォーメーション、DXで略させてもらいますが、今までの行政の町民サービス等は継続しながら、そして新しいデジタルトランスフォーメーション、DXの推進によって利便性が高まる、そういった中を考えております。これは並行して動いていかななくてははいけない。もう一時期で、ここでスパッとという考えではありません。今、高齢者の方々がいろんな証明とか御相談とかお見えになったときには、しっかりと職員がサポートするという、それは絶対行政として取り組まなくてははいけないことだと思っています。ただ、なぜDX、デジタルトランスフォーメーションなのかというのは、将来、川南町も人口が削減されるということで、2040年には今の職員の規模が半分に半減するのではないかという予測も出ています。ということは、効率的な運営をしていかななくてははいけない。それが、一つはデジタルトランスフォーメーションかなと思っています。そういった人的な問題もありますが、効率よく行政の職員も動かして、逆に余った時間帯を、表現が悪いですが、余った時間帯ではなくて、効率よくすることによって生まれた時間を町民サービスに生かしたい、そのように考えています。

以上です。

○議員（徳弘 美津子議員） 高齢者を置いてけぼりにされないということで、昨日もある会でお話しさせてもらったときに、なかなかスマホの使い方が分からないんだよと。そして、よくスマホ教室とかをするらしいですね、地域で。ところが、ドコモならドコモとかいう限定されてしまうので、なかなか入りにくいと。できたらマンツーマンで教えてよということがあるんですね。そこあたりの窓口業務とか、やっぱりやってみたい高齢者の人たちがいるわけですよ。もうやらないからいい人もいれば、やってみたいけどできないんだよという方もいらっしゃるんですけど、そこあたりの窓口というか、そういう支援が考えていらっしゃるでしょうかお願いします。

○町長（宮崎 吉敏君） 徳弘議員の質問にお答えします。

行政でできること、できないことというのは、はっきりしておかなくてははいけないかなと思っています。本来、町民が求めるものは全てお応えするというのが当たり前の世界だとは思いますが、できれば、そういったスマホ等であったりとか、そういった操作に関しては民間の方々のお力を借りながら、また、地域で、それぞれの自治公民館でも、またそういった勉強会の機会もあると思います。ぜひそこで学んでいただければなど、そういう機会を各自治公民館で設けていただければなどと思っています。

以上です。

○議員（徳弘 美津子議員） 分かりました。昨年、ちょっとデジタルに関わるか分かりませんが、チーカの販売において、カードの場合は10%というプレミアなんですね。やかましく怒られましたね。平等であるべきだと。もともとスマホを持っていないのに、なんでチーカが1割りなんだということで、とても叱られたんですけども、平等性に欠くのではないかということ言われたんですね。そこあたりは関係ないですか。だめですね。はい、いいです。分かりました。

では終わります。

○議長（中村 昭人議員） しばらく休憩します。10分間休憩します。

午前11時03分休憩

.....

午前11時13分再開

○議長（中村 昭人議員） 会議を再開します。

休憩前に引き続き一般質問を続行します。

教育課長から発言を求められておりますのでこれを許します。

○教育課長（三好 益夫君） ただいま、徳弘議員のほうから町長のほうにということで、スマホ教室の件でちょっとお尋ねがあったところです。

こちらのほうで、町長のほうが、民間に任せたいということで答弁させていただいているところなんですけど、こちらのほう、生涯学習講座の一環としてということで、スマホ教室のほうを実施しております。令和6年度につきましては、18回開催を予定をしているところで。こちらの講師のほうは、携帯のキャリアの方をお願いをしているところであるんですけど、幅広くどこのメーカーというか、どこのキャリアであっても対応できるようにということで、講座のほうを開催しております。

以上です。

○議長（中村 昭人議員） 次に、蓑原敏朗議員に発言を許します。

○議員（蓑原 敏朗議員） さきに通告いたしました質問要旨に基づき、質問をさせていただきます。

今回は通常と異なる異例な形での3月議会となり、一般質問は、昨日の町長の町政運営方針に対してのみということなので限定されますが、お尋ねしてまいります。

まず、人口対策についてお尋ねします。

人口は、当該団体の勢いを計る大きなバロメーターではないでしょうか。ましてや、人口の自治体の推移は端的に、その自治体の元気度が現れると思います。残念ながら本町においても、人口は毎年減少していますが、川南町のみならず全国多くの地方自治体では人口が減少、少子化に苦慮し、対策を練っているところです。ただ、その努力にもかかわらず、必ずしも対策の実効、効果は上がっているとは言えません。人口が減少しますと地域の維持も難

しくなり、ひいては、町全体の勢いも失われていきます。

町長も人口減少の危機は十分認識され、対策の一つとして、今回、移住支援アドバイザーの配慮という御発言かと思います。多くの自治体では、人口減少対策の適切な答えは持ち合わせていないようですが、町長の何かせねばという、ただ嘆くだけではないトライ、チャレンジの姿勢は評価いたします。失敗をおそれたり、何もしないで対策を講じず、じっとしていることこそ、最も非難されるべきことではないでしょうか。

そこで、今回の御提案の移住支援アドバイザーの配置についてお尋ねいたします。先ほど、同僚議員から同様の質問があり、重なる部分もあるかと思いますが、御容赦いただきたいと思います。先ほども申されましたけど、具体的な人選はどのようにされるのでしょうか、現段階でお持ちの考えがあればお聞かせください。

併せて、タイムスケジュールというんですか、行程表についても計画がありましたら、今年度中とかいうことじゃなくて、いつまでにこういうことというような具体的なところがありましたらお聞かせください。

あとの質問は、質問席でお尋ねいたします。

○町長（宮崎 吉敏君） 荻原議員の質問にお答えします。

移住支援アドバイザーということですが、現在は窓口として、地域おこし協力隊員が移住相談を行っております。様々な支援策の説明や川南町の情報を発信していますが、移住を希望される方々をさらに手厚くサポートするため、民間の力を活用して、J A、商工会など多岐にわたる団体から選ばれた方々で組織する支援サポート体制をつくりたいと考えております。

また、タイムスケジュールということもおっしゃいました。基本的には、各団体それぞれ組織の事業を抱えていらっしゃると思います。まず、各団体の理解を求めるということが大事なのかなと思っています。その中で、仮に商工会という中では、中小企業診断士、それから経営支援員という形の職員がいます。そういった方々のお力、また、農協もしかりだと思います。そういった方々のお力を借りながら、具体的な問題に対して適切にアドバイスできる、そういった組織をつくりたいと思っています。

早急にということですが、これはそれぞれの団体の活用を考えておりますので、まず各団体の理解を深める、これがスタートではないかなと思っています。

以上です。

○議員（荻原 敏朗議員） 各団体からということで、各団体の協力を得ることがまず最初だよということですけど、全くそのとおりですけど、ただ、町長はそうじゃないんでしょうけど、私なんかはぐずぐずしてるほうですから、何かせっぱ詰まらないとやらないというような性格なものですから、ある程度、いつまでに何々というのを決めておかないと、ずるずる行って年度末になってしまって、取ってつけたようなことになりはしないかという懸念をしてしまったわけですけど、そのことについては大丈夫でしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 荻原議員の質問にお答えします。

今回、私が移住支援アドバイザーという組織をとすることは、最も重要なことだと考えております。先ほど時間がだらだらと流れてということじゃなくて、各団体の理解を得られれば、早急に動かしたいと考えております。所信表明の中でもこれ発表させていただきましたので、最大の課題として捉えておりますので、ただ時間が経過してうやむやにということはやらないと考えております。御理解をお願いいたします。

○議員（荻原 敏朗議員） ぜひお願いします。自分のことで恐縮ですけど、私は、横文字は使うなって言われてるんですけど、英語でプロクラスティネーターと言います、ぐずぐずする意味を。そんなタイプなものですから、杞憂に終わることを期待しておきます。

ここで町長、毎年川南町は人口が減っているんですけど、この状況をどう捉えておられますか。聞き方がちょっと悪いですね、どのくらいまでなら、川南町の人口は持ちこたえられるんですよと、これ以上減っちゃ駄目だよというのは、何か想定はされていますか。

○町長（宮崎 吉敏君） 荻原議員の質問にお答えします。

具体的に人口が何名というのは、まだ想定しておりません。ただ、いろんな定住、移住、いろんな川南町の施策が打たれております。ただ、それだけでは至らないと。今回の支援アドバイザーというのは、しっかりとその方に寄り添って、その人の問題を解決する。これがなければ、来ていただいてもまた違ったところに転出されるという、一番避けなければいけない世界かなと思っています。

それと、今現在、各地区で、各行政でいろんな施策を打たれています、定住移住に関して。ただ、現実的に問題なのは、その施策、期間があってその期間で恩恵を受ける、ただ、それが終わったら、また、よそにという事例も起きています。

まず、私は一番考えるのは、やはり川南町に住んでよかったなという、その結果を出すべきじゃないか、そのためにこういった支援アドバイザーという組織を立ち上げて、一人一人に寄り添った支援。それぞれの団体も、農家のほうであり、商工業のほうであり、漁業もそうですけど、いろんなそういった組織内に持っているんですね。そういった方々を多面にわたるような相談組織ができればいいなと思っています。

以上です。

○議員（荻原 敏朗議員） 実は、次の質問を考えていたんですけど、新アドバイザーに何を期待するんですか。もう町長がおっしゃったので、それは聞きませんが。じゃあ、なぜ人口が川南町の場合、減るんでしょうか。先ほど町長がちょっとおっしゃいましたように、各自治体いろんな支援策をやって、中には県内の自治体で少し人口が増えている、転入者が増えているところなんて、とても川南町ではまねをできないようなすごい金額の支援策も出しているところもあります。

でも、先ほど町長がおっしゃったように、その期間が一定、期間過ぎたらどうなのかなという不安も残るわけですけど、本町の場合、時間、なぜ人口が減るんでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 私が、なぜ人口が減るのかと。これは戦後、大都市圏から集団就職という形で若い世代の方々が集団就職、それから学歴、大学等も含めて外に求める。一回外に出られた方というのは、なかなか、先ほどUターンという話もありましたが、なかなか帰ってこないんですね。これは、戦後からずっと培われた歴史の中で、若い人をとどめるということが、ある年齢になったらやはり都会を目指したいとか、そういった環境の問題もあろうかと思います。

それから、自然に人口が増えているというところは、逆の意味で言えば、都市圏の隣接した市町村がベッドタウン等で、都市に住むよりは安くて、土地が、経費がというような中で、その周りにベッドタウンみたいな形で組織されている。ぜひ私は、若い人が出ていくということは、これ、その人の人生の中で大事な世界ですから、それを私たちがどうのこうのとは言えないと思います。

ただ、教育の場の中で川南町、地域を愛するという思いだけは育んでほしいなと。その方々がよそに出られて、何年か後には川南町にという結果も出したいなと思っています。この今までの人の流れ、地方から中央に流れている、これは戦後80年になりますかね、全くそこに対しては手が打てていないんです。これは一番大きな問題だと捉えています。

人口の問題もあって、郡内に南九州大学というのがありました。高鍋町には県立農業大学校というのもあります。そういった中で、上を目指す方々の学ぶ場があれば、また流出というのはある意味防げるというのものもあるかもしれません。でも、今の現状の中で大きな流れの中を変えるという、これはなかなか厳しいと思っています。ということは逆に、川南町が魅力ある町になる、このことが、町外から、都会から田舎でというような、そういった方々を引き寄せる一つの方策になろうと思います。やはり魅力あるまちづくりをつくっていく、築いていく、そのことに尽きるんじゃないかなと思っています。

以上です。

○議員（養原 敏朗議員） 町長のおっしゃることの中に幾つか、ああ、そうだなと思ったことがあります。集団就職とか、これ仕事を求めてですよ、集団就職というのは。それと学業、夢を抱かれて都会に行かれた方いらっしゃるでしょう。それらを否定するものではありませんけど、逆に言うと本町に仕事がない、生計を維持できる仕事がないということで、好んでじゃなく、嫌々出ていく人もいるんじゃないかと思うんですよね。

町長がおっしゃった魅力あるまちづくりに尽きると、そのうちの大事な要素は、生活ができる仕事があるというのもその要素じゃないんでしょうかね。これは僕の考えですから、ひょっとして違うよという考えであれば、またお聞かせください。

移住支援アドバイザー、先ほど同僚議員の質問の中で、町長、来られた方が、一定期間を過ぎて出ていかないようにということも、ちょっと触れられたかと思うんですけど、もうちょっと広げてですよ、今、住んでいる方が出ていかないようにというんですか、そういう支援も必要だと思うんですよ。そういうのも移住支援アドバイザーに期待するのは、ちょっ

と幅が広がりますかね、酷でしょうかね。

○町長（宮崎 吉敏君） 移住支援アドバイザーは、当事者の方が、今、抱えている問題等をしっかりと支援する、アドバイスするというのが全てかなと思っています。川南町で一番大事なものというのは、やはり町民であり、川南町に移住して住んでいただいている方々、そういった方々を取り残さないようにしっかりと、全ての環境は、川南町も私が言うものではないと思いますが、もっと充実しないという思いもありますが、結構、市町村の中でも支援策、それから福祉等については、ある意味充実しているんじゃないかなと捉えています。

また、地域で新規創業とか、それから後継者が就農とか、そういったことに関しても、具体的な支援策はあります。もし私で足りなければ、担当者がお伝えしたいと思いますけど、そういった様々な支援策は講じています。ただ、来ていただいてここに住んで、町民もそうですけど、よかったなと思えるような環境づくりというのが、間違いなく将来に結びつく世界じゃないかなと思っていますので、そういった環境についてはしっかりと取り組んでいきたいと。また、外に出ていく方々に対しても、一応担当課のほうでアンケート調査、なぜ転出されるのか、どういう理由があつてとかというのもアンケート調査を行っております。ですから、そのアンケート調査を基に、もし何か課題、問題があるのであれば、それはしっかりと対策を打っていく、そういう考えでいます。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） ですから、私、お尋ねしたかったのは、支援アドバイザーは、経済団体等の方も考えていらっしゃるということでしたので、現に、離農、離漁というんですか、漁業をやめられるような人のことも分かっているから、それらの方についても、入ってこられた方の支援だけでなく、出て行かれる方についても造詣が深いんじゃないかと思ったものですから、その辺も求められたらどうなんでしょうかねということ質問したところです。ぜひ、その辺もお願いしたいと思います。

次に、町内産業についてお尋ねします。今日、体調が悪くて休んでいらっしゃる同僚議員が質問を上がっていたようですけど、それを聞いて質問しようかなと思っていたんですけど、基幹産業である農林水産業の収益向上と安定した経営支援をと、町長、述べられています。何か具体的な、こういうことを考えてますよというのがありましたらお聞かせください。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えします。

今回、議案にも上げさせていただいております、収益向上への具体策は、議案第21号令和7年度川南町一般会計予算にて計上をしている関係費目でありますと同時に、関係する特別会計予算であります。

なお、その代表的な中身について触れますと、物価高騰により消費低迷が続く肉用牛生産者への収益向上策として、川南産牛肉の消費拡大事業880万円、特産品送料助成事業7425万円など、様々な事業を継続し、収益向上を支援します。

なお、新規事業といたしまして、漁業者の所得向上対策を目的として、魚価向上支援補助

金、内容については、船の生けすの保冷力向上のための改修、町単独事業で補助率2分の1、上限50万円は、昨年12月議会定例会で可決いただきました川南産農林水産物等消費拡大条例に基づき、事業を構築いたしました。加えて、議案第5号川南町経済推進会議の設置も、農林水産業をはじめとします本町の産業振興への対策であります。

また、宮崎県においては、施設園芸の飛躍的な生産向上を図り、デジタルデータやAI分析による作物の最適な栽培環境の創出、データに基づく栽培指導ができる人材育成など、施設園芸におけるデータ駆動型農業の実現を目指すことを目的として、施設園芸のデジタル化推進プロジェクトや民間事業者と連携したアプリの開発を行っています。

今後は、川南町の農業においても、県が創出した取組を加速するために、施設園芸のデジタル化推進プロジェクトへの参画推進やデータを活用した農業を志す経営体への初期投資支援などを行うことにより、本町農業の生産性向上による収益向上を図っていく必要があると考えています。

なお、具体的な取組については、宮崎県、JA、その他の生産者団体との協力、連携も不可欠であると考えております。

以上です。

○議員（養原 敏朗議員） 町長、るるお述べいただきました。もちろん、一生懸命やっていらっしゃることは理解しております。ただ、構想とか、こういうことをやりたいというのではなくて実施施策を、具体的に何々をやるよというのを農業者、漁業者辺りは期待しているのではないかなと思うんですよ。

その辺の情報を町長は、トップ会議等で捕まえられることとされているんでしょうけど、私、現場の、うちでいう担当職員も、現場をぜひ知ってほしいし、農業部門であれば、その職員と農協の職員、漁業であれば、川南町の職員と漁協の職員との交流も、現場での交流も必要じゃないかなと思うんですよ。町長だけでなく、職員間の交流も必要だと思うんですけど、町長、どうお考えでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 先ほど説明いたしました議案等については、現場職員が責任を持って、それぞれの団体、農協、漁協と対話を重ねながら、具体的な案を示したところです。決して職員が現場に赴かないで、机上論だけでやっているということではありません。しっかりと現場の意見を承って、どうしたらいいかということでの実現ということを考えております。そこは間違いなく現場の職員は努力しておりますので、御理解を賜りたいと思います。

以上です。

○議員（養原 敏朗議員） 現場での交流はやられておると、その上での政策だということですけど、それはそれで理解しますが、より一層、その辺は強めていただきたいと思います。町長、寄り添うとかいう言葉使われますけど、全くそのとおりですね、そのためにも現場で情報収集にも努めていただきたいと思います。

これは学生時代、余談で聞いた話ですけど、かつての帝政ロシア時代に政治的な悪いこと、

悪いことというんですか、当時の皇帝なんかに齒向かってシベリアに流された人の最も重い罪は、こっちにある土を運んでこっちに移すと、その土を元に戻すと、目的のない作業をずっと無限に続けさせるということだったんだそうです。嘘か本当か知りません。そんな夢も希望もないような作業ではいけないと思うんですよね、農業、漁業等が。

だから、夢とか希望、いつまでにどんな施策をするんだということが、寄り添うということの具現化、具体化じゃないかと思うんです。そのため、ぜひ町長もトップ会談で情報収集されるでしょうけど、現場においても、ぜひそんな努力をしていただきたいと思います。

次に、資金の町内循環についても触れられております。そのために、電子地域通貨のことを言っておられますけど、電子地域通貨につきましては、発売するとすぐに売り切れるというような状況で、消費者サイドからは一定のニーズもあるんだろうと思います。ただ、電子地域通貨事業の推進が、本当に域内循環について大きく寄与しているということについては、若干疑問もないわけではないんです。町長の御認識はいかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えします。

本町独自の電子決済システムであります、電子地域通貨トロンの流通額、本年度を含む直近3カ年を申し上げます。令和4年度が3億4255万6936円、令和5年度が3億7884万3930円、本年度は3月9日までのデータですけど、4億8120万1069円です。それから、利用できる登録店舗数ですが、現在、町内193店舗が登録している状況です。

そのうち、懸念という言葉がありましたけど、そのうちの15店舗が、本店や本社が町外である、その割合が全体の8%に相当します。おおむね、年を重ねるごとに流通額、それから店舗取扱店も増加し続けています。この状況は、電子地域通貨トロンの認知度が向上しているものであると分析しております。

全員に行き渡らなかったというのは、先月、2月に地域通貨トロンのプレミアムということで取り組みましたが、これは国の緊急経済対策ということで、3月年度内いっぱい全ての事業を終了するという前提がありましたので、地域通貨トロンの経済対策ということで利用させていただきました。

町内における貨幣経済の全てを当該電子地域通貨事業で賄おうとは考えておりません。今後も取扱店舗等の取扱額等の分析作業を進めつつ、地域内資金循環がより高まるような施策を講じてまいりたいと思います。

ここで一つ、お伝えしたいことがあります。川南町が、第一に農林水産業が潤うことで、その潤った金で町内の消費が上がる、そして、事業者もそうですけど、町内の消費が上がるということで税収も上がってくる。これが経済、金の流れの一番大切なことではないかな。できるだけ町外に出ていく金をとどめたい、町内にない業種というのは致し方ないかもしれませんが、町内で賄えるということは、絶対に町内で利用を促進していただきたい、これが私の思いです。

以上です。

○議員（荻原 敏朗議員） 町長も調査するとおっしゃったから、これ以上言いませんけど、私が懸念しているのは、店舗数は8%ぐらいとおっしゃったけど、金額ですよ、電子地域通貨を買って物を買われるお店というのは、どうも町外資本のお店が圧倒的に多いんじゃないかというのを心配していますので、その辺の調査と、ぜひ何か手だて、難しいかも分かりませんが、手だてもぜひ考えていただきたいと思います。

次に、人材育成についてお尋ねします。

町長は、子供も大人も地域との関わりを大切に、また、地域に根差した人材育成と言われますが、その意図とはどういった意味なのかなと、具体的にこういうことをするんですよということがあれば、お教えいただきたいと思います。

○町長（宮崎 吉敏君） 荻原議員の質問にお答えします。

中瀬議員の質問の中にもお伝えさせていただきました。川南町は平成27年から、地域と学校が連携を図った取組を推進しております、これはキャリア教育も含めて。各学校において、子供たちが地域に出かけて地域の方から教えてもらったり、地域の方々が学校に来てくださったり、また、子供たちに話をしてくださったり、一緒に活動をしたりするような学習を設定しております、子どもに対して。

川南町の教育の特色の一つであると考えておりますので、これからも地域の学校という考え方を大切にしながら、このような取組を通してふるさと川南を愛する子供を育てていきたいと思っています。

また、いろんな形で地域の方々もそれに参画することによって、逆に自分の生きがいというものも芽生えてくるんじゃないかなと思っておりますので、しっかりと地域で学校、地域で育てる、この考えを推進していきたいと思っています。

以上です。

○議員（荻原 敏朗議員） 町長のお考えは分かりました。町長も、先ほど同僚議員の質問でおっしゃっていましたが、全てが人ですよということですよね。誰だったか忘れました、人は城と言った武将もいました。予算や財源が幾らでもある時代ではありません。地域間競争というんですか、自治体間競争、生き残り競争はもうある意味、知恵比べだと思うんですよ。お金がいっぱいあるところはお金を使えばいいんでしょうけど、お金のないところはもう工夫するしかないわけです。人材育成が重要になってくると思うわけですよね。

2つあると思います。地域の人材と行政職員、まちづくりに携わる職員の育成、その2つをそれぞれでもいいし、協力してやればもっと相乗的に効果があるでしょうけど、町長、何か人材発掘や人材育成について、アイデアをお持ちでしたらお聞かせください。

○町長（宮崎 吉敏君） 荻原議員の質問にお答えします。

今、職員もという話もありました。職員の方々は、様々な研修にそれぞれ意欲的に携わっております。いろんな知識を豊富に、そして、そのことを踏まえて町民にサービスができる、これが基本的な考えだと考えております。

それから、子供にとっては一番大切な、豊かな心を持ってというのが大事じゃないかなと思っております。ぜひ、学業も含めて豊かな人に育ってほしい、これが全てであります。また、そういった豊かな心を持っている方は、逆にいろんな方々に影響を与えることもできると考えております。ぜひ、子供たちにはそういった人に育ってほしいなと思っています。

以上です。

○議員（養原 敏朗議員） 時間もありませんので、人材育成についてはこれ以上お尋ねいたしませんけど、またの機会に質問させていただきます。

ただ一つ、同僚議員の先ほどの質問の中でちょっと気になったことがあったんですけど、青壮年の教育が抜けているんじゃないかという質問があったかと思いますが、全国的には文科省がやるだろうし、県でいえば県教委、川南町では果たして町教委、すんなり真っすぐなっているのかなと。川南町の場合は自治教育というんですか、公民館、地域づくり教育は、教育委員会の範疇じゃなくてまちづくり課、本町の場合はウエイトが大きいんじゃないかなという気もしているんですよ。その辺の国・県との、言葉は悪いですがね、ねじれというんですかね、その辺を町長、どのようにお考えでこの辺を改善されるおつもりはございませんか。

○町長（宮崎 吉敏君） すみません、質問の中にそのことは入っていなかったものですから、そのことに関してはしっかりと精査はしていきたいと思います。ただ、国・県のという組織と川南町がという、川南町もしっかりとそれぞれの担当課が担う責任、役がありますので、その中で、今、自治公民館についてはまちづくり課が担当しているということです。

以上です。

また、今後もし機会があれば、次の一般質問のときにでもお聞かせいただければなと思います。

以上です。

○議員（養原 敏朗議員） 社会教育行政については、また次の機会にしたいと思います。

今回は、町政運営方針に係る質問限定でしたが、何事についても言うはやすく、実現は困難なことが多いのが現実だと思います。でも、それなくして持続可能な川南町の実現ということは不可能、できないということでしょうけど、ぜひ町長には、先ほど同僚議員の質問に、若連協という言葉がいっぱい出てきましたけど、若連協が発足する前から、いわゆるフェスティバル等について一緒にやった仲ですから、町長のリーダーシップなり活躍は知っておりますので、ぜひその行動力を発揮され、町政運営方針の具体化、具現化にぜひ邁進していただきたいと思います。

何か御決意があればお聞きして、私の一般質問を終わりたいと思います。

○町長（宮崎 吉敏君） 養原議員の質問にお答えします。

私たちが若い頃というのは、また、今と環境が全然違ったと思っているんです。何もない川南町に、自分たちで何かやろうという熱い思いがあったと思うんです。ただ今、若者連絡

協議会もそれぞれが事業者の主で活動をなさっています。ですから、いろんな形で負担が起きるというのは大変、酷なことなのかなと。ですから、労力がかかること以外にできることがあるんじゃないかなと、そういった方向性も示していけたらなと思っています。

以上です。

○議長（中村 昭人議員） 以上で、一般質問を終わります。

以上で、本日の日程は全部終了しました。

これで散会いたします。皆様、お疲れさまでした。

午前11時59分散会
